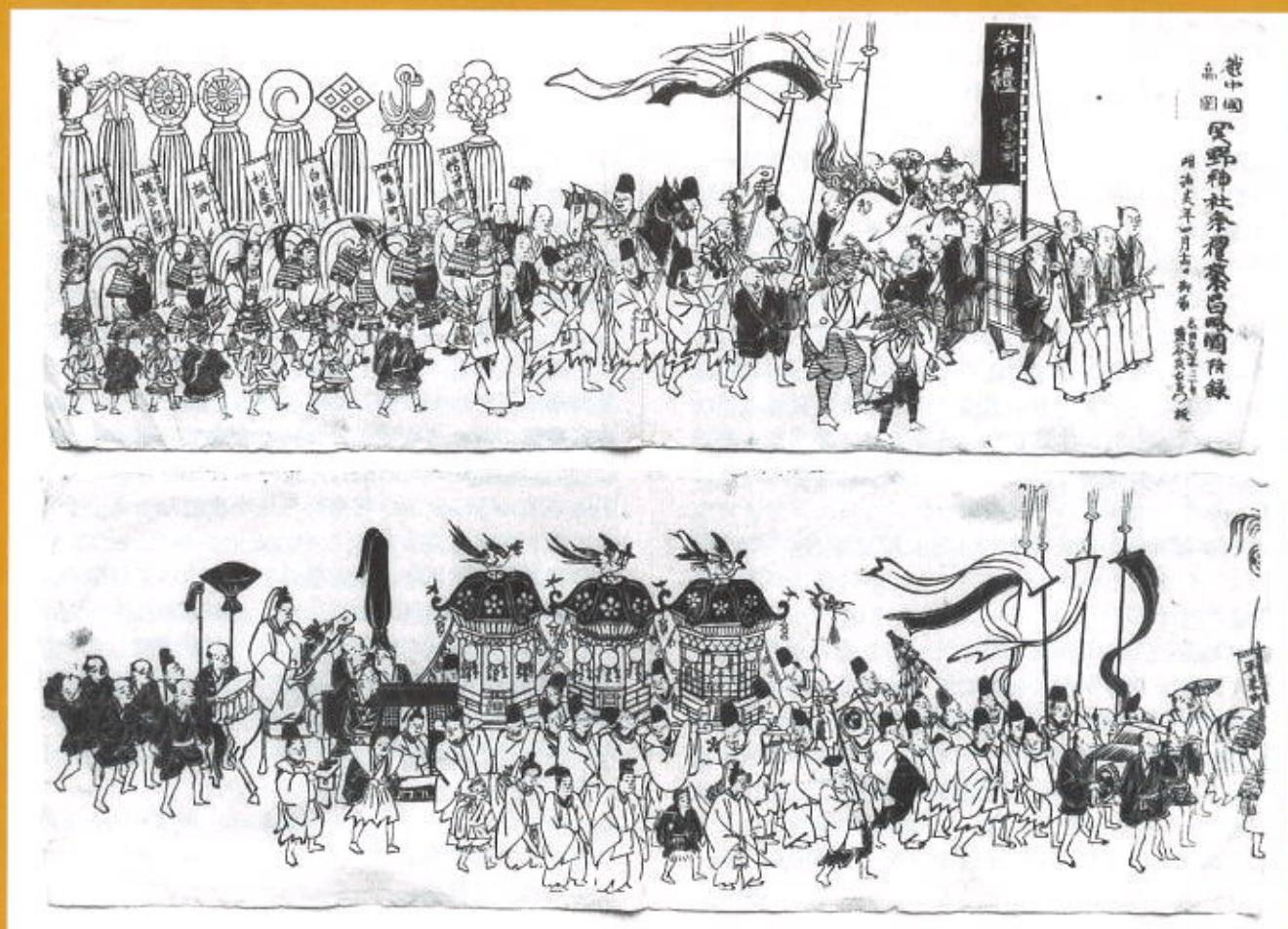


博物館だより



越中国高岡関野神社祭礼繁盛図（部分）

平成10年度 展示紹介

◆企画展「高岡銅器産業を築いた商人たち」 4月11日（土）～6月21日（日）

今日の高岡銅器産業発展の基礎は、江戸末期から明治期における銅器問屋の経済活動に始まります。

その銅器問屋の中でも、角羽勘左衛門・金森宗七・大橋三右衛門・塙崎利平らは、技術の開発・向上や販路の拡大に努め、高岡銅器の名工の作品を国内外の博覧会などに多数出品し名声を博しました。これら銅器問屋に関する製品・下図・営業資料・関連写真などを展示し、銅器産業発展の歴史をたどり、明日の高岡銅器産業を考える機会とします。



銅器下図「華唐草文象嵌花瓶」黒谷津右衛門
塙崎利平 拝

◆企画展「高岡の祭礼と母衣武者行列」 7月7日（火）～9月23日（水・祝）

高岡市内の祭礼のうち、関野神社の大祭である御車山祭や大木白山社・川巴良諒訪神社の春季例大祭には、昭和30年代頃まで「母衣武者行列」が行われ、祭礼を盛り上げてきました。この行列の起源は定かではありませんが、明治16年に描かれた「越中国高岡関野神社祭礼繁昌図」にはっきりとその姿をみることができます。しかし、今日では行列は行われなくなり、祭礼時に各町内の祭宿に母衣（甲冑）等が飾られるだけとなりました。

本展では、その「母衣武者行列」に用いられた母衣や旗・纏・獅子頭・装束などの貴重な郷土の資料を一堂に展観し、かつての賑やかな祭りの姿を紹介します。

「白絲威具足一式」
(白銀町自治会)



◆特別展「台所用具の移り変わり」 10月6日（火）～12月13日（日）

第8回全国食文化交流プラザ富山が開催されるのに因み、古い台所用品や資料写真などを紹介します。

近年、日本の「食」を取りまく環境は大きく変わってきました。それは燃料の変化・生活の洋風化・数々の台所用家電製品の出現などの要因に加え、冷凍食品やレトルト食品の登場による調理法の劇的な変化も大きな要因の一つです。

本展は、明治・大正・昭和期における食料の貯蔵・炊事・調理などの変遷を、各種の台所用具の展示を通してたどり、次第に失われつつある郷土の食文化について考え、我々の「食」の将来を考えます。



台所用具

◆常設展「郷土の暮らしと文化」 10月10日（土・祝）～平成11年3月22日（月・祝）

高岡市は近世期の開町以来、銅器や漆器といった伝統産業を生み出し、今日まで商工都市として発展してきました。特に明治期における高岡商家の商業活動は、全国的にみても特筆すべきものがあります。

本展では、このような郷土の特性を当館収蔵の歴史・民俗資料を中心に展示し、広く高岡の歴史と文化を知つてもらう場とします。

郷土の歴史資料などの 情報を求めています。

歴史資料や生活資料は、社会の変遷や興亡の足跡を理解する上で重要な文化遺産です。当博物館では、古文書・絵画・その他資料などの収集を行い、企画展に生かし皆様に見ていただきたいと思っております。情報がありましたら、是非ご提供をお願いいたします。